

A photograph of a classroom where several children are seated at a wooden table, each with a laptop. They appear to be engaged in a learning activity. The room has educational posters on the wall. The image is partially obscured by a dark blue diagonal graphic on the left and bottom right.

# 匠の技の可視化について

# 匠の技の可視化について

匠の技 = 優れた教師の指導技術

▶ 経験や感覚に基づく属人的なスキル

## 現状と課題

若手の**大量採用**

ベテランの**大量退職**

伝承や普及が困難に...

減らぬ業務量により困難な**研修時間の確保**

## 解決の方向性

経験・勘・気合からの脱却を目指し

優れた教職員の技術を**可視化**、**定量化**し、**調査・分析・研究**

他の教職員へ効果的な伝承

子どもたちの学びの質の向上

# これまでの実証研究

- 対面の話し合いをたまご型レコーダー（ハイラブル社）で録音し、客観的なデータを基に話し合いを可視化。
- 教師のどのような声かけや発問が児童生徒の学びに影響を与えているのかについて検証。

令和3年度 市内5校

令和4年度 市内2校

令和5年度 市内2校(予定)

【検証1】 児童生徒の学習時の発話量の時間変化より



上グラフによると、教師の精選した意図的な発問によって、話し合い活動において児童生徒の発話量が増える傾向が見られた。特に、以下のような発問の際に高い数値となった。

\*〇〇さんは、なぜたし算をしたのかな（つなげる）

\*〇〇さんは、何に着目したのかな（深める）

※R3指導の重点・主な施策p4③発問による授業づくり参照

また、教科の特質に応じた見方・考え方を児童生徒が働かせている様子も見られた。発話量からも主体的に話し合いが行われている結果が見られた。

【検証2】 話し合いデータを児童生徒が活用した取組より

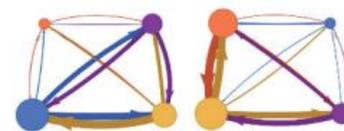
児童生徒が自分たちの話し合いをデータに基づき客観的に把握する時間を授業内で意図的に設定し、教師による中間指導も含め、グループ内の関わり合いや発話量について確認をするようにした。

そうすることでその後の話し合いの見通しがもてるようになり、多くのグループで前半の話し合いより主体的に関わろうとする様子が見られ、行動の傾向分析からもその変化を見ることができた。



【検証3】 発話の関わり合い（ターンテイクより）

多くの授業において、話し合いのグループが4～5人で編成されていたが、ターンテイクを見てみると、グループの多くで、上データのように主体的に話し合いに参加できないメンバーが必ず1名以上存在することが分かった。3人グループの際には、比較的関わり合いのバランスがよく、個人的な発話量、重なり度、盛り上げ度についても伸びが見られる結果となった。



# 匠の技の可視化の更なる推進に向けて

- R5.10月～ R6.3月 未来の学びの実現に向けてクラウドファンディングを実施
- R6.7月～ 以下の観点から、授業中における”こどもたちの発話”と”教師の指導”との関係をより深く詳細に分析
  - 可視化・定量化
  - データ分析
  - 考察
- R7.4月～ 成果まとめ  
子どもの学びに影響を与える優れた教師の”技”を解明

目標額：約300万円

データ収集等に係る機材調達費  
データ分析等に係る経費など

## ①発話量（発話時間）と学びとの関係の分析

例）児童生徒の発話量が多いほど（発話時間が長いほど）、学力や非認知的（社会情緒的）スキルによい影響があるのではないか。

## ②児童生徒の話合いと教師の指導との関係の分析

例）児童生徒の話合いが活発化した場合、教師の声かけ等がきっかけとなっている場合があるのではないか。

例）児童生徒の話合いの活発さは、教師の学級経営の在り方を示す県学調の質問紙項目との相関関係が見られるのではないか。